

蹴球部 (男子・女子)

部長 内藤 久志

監督 吉村 雅文, 女子監督 中庭 健一

コーチ 青葉 幸洋, 竹岡 雅師, 福士 徳文, 渡辺 光

昨年, 2部リーグを制し, 1年で1部復帰という目標を達成した今年は, 再び1部の舞台でプレーすることができた. また, 昨年4年生がスターティングメンバーの半数を占めていたことから, 今年は順天堂大学蹴球部の再スタートの年となった.

例年どおり, 今季の目標, チームのコンセプトを確認するためにミーティングを行なうことからスタートした. まず, チーム柱として3つテーマを共通理解するように求めた. ①裏のサッカー②ボールを奪う力③ボールを失わない力を3本柱と銘打って, 強く意識すること, そのためにできること, やらなければならないことを考えさせた. そして, 今季の目標を「インカレ出場」(リーグ戦4位以内)を達成することとし, シーズンのスタートを切った.

本年の最初の取り組みとして, 関東大学サッカーリーグに所属する4校(本校含む)で強化練習および試合を3日間にわたり行なった. 4年間, 同じ仲間としか交流しない状態ではなく, 他大学の選手と一緒にプレーすることや, 他大学の指導者と話すことによって, 普段感じないことを多く感じる事ができた. これは, 選手にとっても, 指導者にとっても, サッカーのみならず, 人としての成長でき



る貴重な時間だと感じるため, 今後も行なっていきたい.

大学サッカーは, 前期と後期の2期制で行なうため, 前期終了の時点での順位, 勝ち点状況が後期の方向性を決める一つの目安となる. 場合によっては, 目標の修正を考える必要があり, 後期の戦いに支障をきたすと考えられたため, 前期の戦いが非常に重要であり, 4位以内が見えるところということを意識しながらリーグ戦開幕を迎えた. 前期リーグの途中で3本柱に付け加え, 「機動力」と「入れ替わらないディフェンス」という2つのキーワードを徹底するよう指導を行なった. 幸いにも前期を6位で終えることができ, 後期に向けてシーズン当初の目標を継続できたことは, 夏の強化期間を迎える上で1番の好材料であった.

夏の強化期間には, トップチームとしては久々に茨城県神栖市でキャンプを行なった. キャンプでは, 裏のサッカーの確認とペナルティエリア内で動き出せる機動力を身につけるためのトレーニングを集中して行なった. その結果, 後期多くの試合に出場した岡庭(1年)と岡本(4年)の成長は, キャンプの成果といえる. さらに, チームコンセプトとして, 新たに3つのテーマを用意し, 指導を行なった.

後期が始まるにあたり, インカレ出場のためには7勝することで可能性が見えると分析し, スタートした. また前期は, 我々のサッカーの確立を目指し, 相手に合わせた戦いということはあまり行なわなかったが, 後期はそういった要素も考慮した試合展開を増やそうと試みた. 後期に向けて, 変化を加えて準備してきたが, 結果は4勝に留まり, 最終順位6位でインカレ出場という目標は達成することができなかった.

シーズン当初は, 学生も良い意味で緊張感と野心を持ちながら取り組んでいたと感じるが, 徐々にチャレンジャーではなく, なにか違うメンタリティーが生まれていたよう



に感じた。また、前期から後期に向けてステップアップしなければならなかったが、夏のキャンプにケガ人が多かったことも強化を難しくさせてしまった。夏の強化プラン、後期の戦略、ケガへのリスクマネジメントと課題の多かった1年だと振り返る。ただ、成績は横這いであったが、新しいことへの取り組みをしなければ成長はないと考え、2部から昇格したチームとしては、1部残留という1つの結果を残すことができた。今季、3本柱として銘打ったコンセプトを始め、シーズン中に追加していったテーマに関しては、浸透していたものとそうならなかったものが分かれていたため、指導者としては、わかりやすいもの、選手が感じ取りやすいものを考えていく必要があることを再認識した。来年は、浸透しなかったものへの取り組み方を第一に考え、良いチームとなるよう準備していきたい。

次に女子について報告する。今年度、関東女子2部リーグに昇格を果たしたばかりのチャレンジャーという立場ながら、「1部昇格」という大きな目標を掲げ、チーム作りを行ってきました。

順天堂大学女子蹴球部は、高校時に全国大会に出場した選手や、大学からサッカーを始める選手など、競技レベルに大きく幅があるクラブです。そのような中、トレーニングの中では主に個人技術の向上、試合の中では、相手コートでボールを奪うこと、前線のスペースを使って攻撃をすることを1年間、取り組んできました。女子蹴球部にとっ

て最も重要な大会である、関東大学女子サッカーリーグは、9月からの2ヵ月間しか行われなため、それまでに主なチーム作りを行っていかねばなりません。また、それまでに緊迫した試合の経験を積むために、4月から年間を通して行われる千葉県社会人女子サッカーリーグ、5月には大学から高校のサッカーチームが一斉に集うメグミルクカップでの合宿、7月には千葉県選手権などで、試合経験を積んできました。合宿では、基本となるボールコントロールの練習を選手個々に課し、試合を行う一方で空いている時間を使い、基礎技術の向上に取り組んできました。また、関東大学女子サッカーリーグ1部に所属するチームとも対戦し、チームとしての経験値を得ることが出来ました。

その後、それらの経験の中で出来たこと出来なかったこと、2部リーグで戦うために必要なことを整理し、もう一度、個人の力を向上させることを重要視しました。ボールコントロールを始め、1対1から2対2、3対3、そして4対4といった局面での力、また2部リーグでは1試合90分間という経験したことのない試合を経験させ、体力的にも厳しいトレーニングを行いました。

関東女子リーグ期間中は、選手たちのコンディションを考慮し、軽い練習で汗を流すなどのリフレッシュする時間を加えながら、主に11対11のトレーニングを行いました。またその中で、チームとして取り組んできた戦術を確認し、前の試合で出た問題点や、次の試合に対する対策など、選手同士で話をしながら改善していくことを求めました。よりお互いのイメージを合わせていくこと、自分たちの力で試合の流れを変えられるようになること、などの意図も含め取り組んできました。またリーグ戦後には、さらに選手たちが自ら考えられる環境づくりをするために、自分たちで考えたトレーニングを行う時間を設けました。

今年度は最終的にリーグ戦4位という結果になり、来年度も2部での挑戦となります。来年度の目標も、ぶれることなく「1部昇格」とし、今年度の経験を活かしながら日々の練習に取り組んでいきたいと考えています。